

女性研究者として輝き続ける ためには？

共働き研究者夫婦のキャリアパス構築
の難しさと楽しさ

産業技術総合研究所 野々瀬菜穂子

(慶應義塾大学理工学部化学科5期)

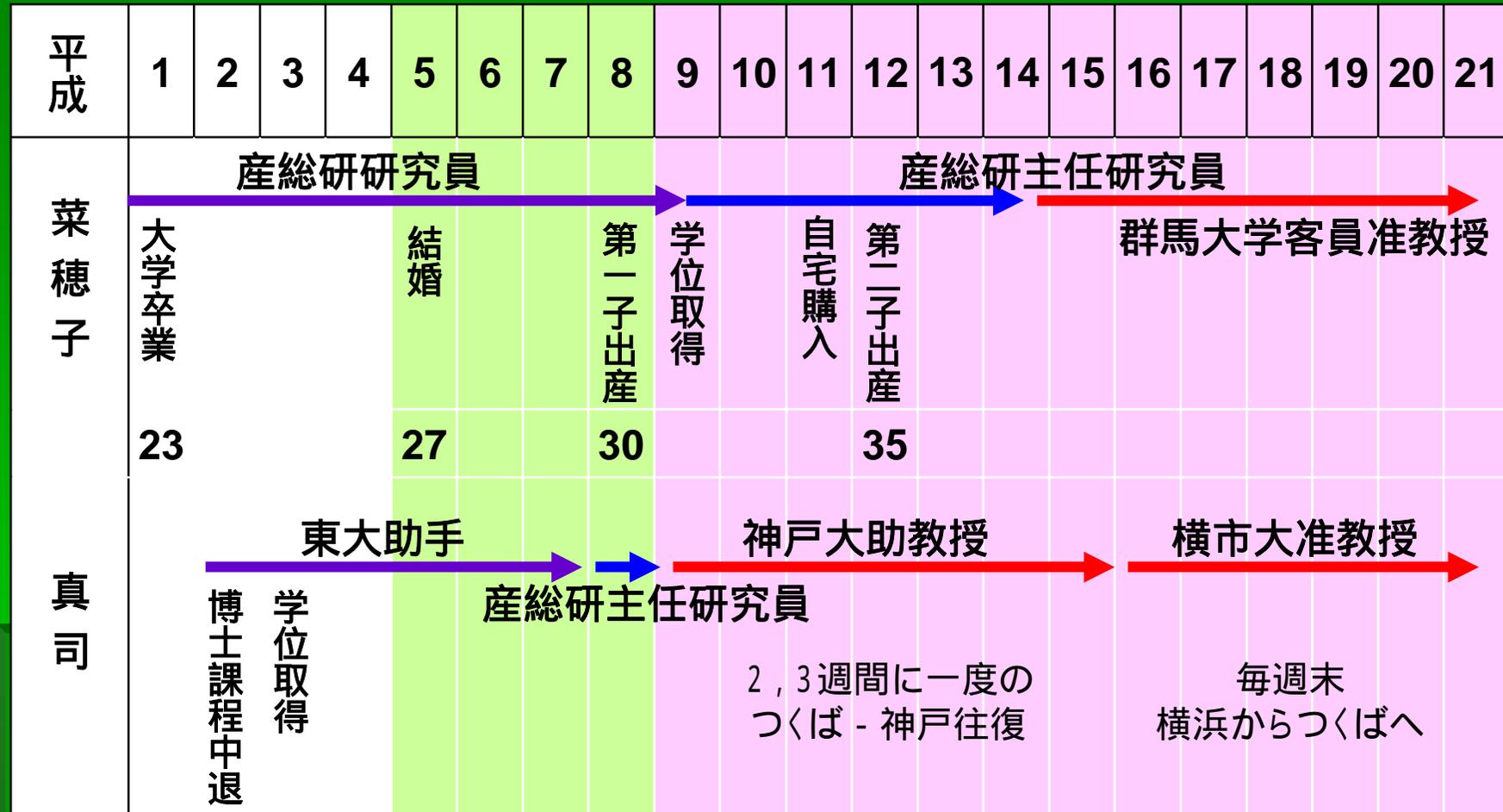
横浜市立大学国際総合科学部 野々瀬真司

(慶應義塾大学理工学部化学科2期)

本日の講演内容

- 研究者夫婦15年間の歩み
- 欲張り人生は楽しい？ - 結婚・出産・学位
- 夫・単身赴任の逆風 - 猫の手も借りたい
忙しさの中で -
- 子育てと研究の両立は楽しい？
- キャリアパス構築の難しさ
- 人生の折り返し点にあたって思うこと

研究者夫婦15年間の歩み



結婚生活15年のうち、同居は4年！残り9年は真司単身赴任の別居生活でも何とかやって行けたようだ……

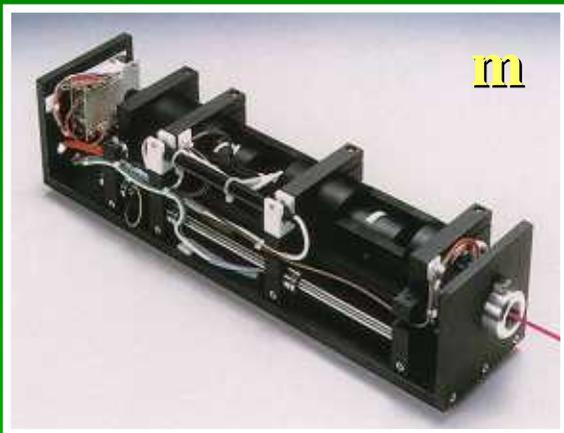
産業技術総合研究所つくば研究センター

筑波山



産総研 計測標準研究部門の研究概要

- SIへのトレーサビリティ -



Iodine Stabilized He-Ne Laser



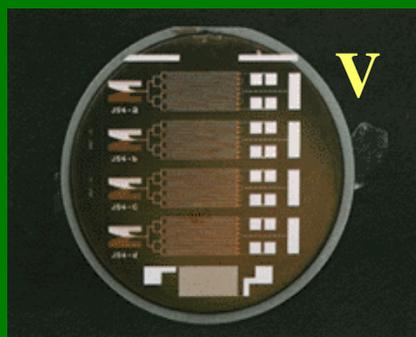
Synchrotron Radiation



Cesium Atomic Fountain Frequency Standard



Reference Materials



Josephson Voltage Standard



The Prototype of Kilogram



Triple-Point
of Water Cell

化学計測の国際的整合性の確立と 長期的有用性の確認

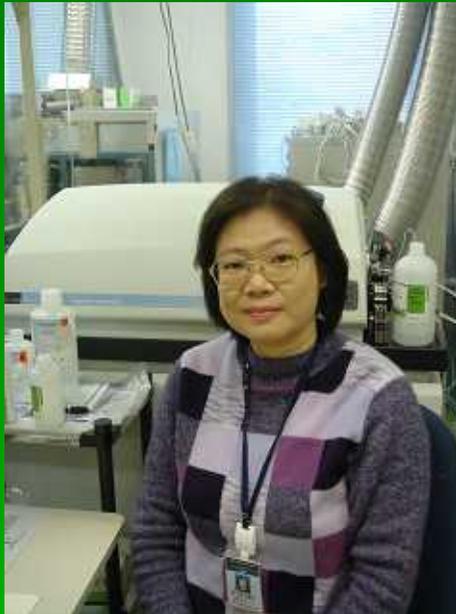


国際貿易の円滑推進

環境保全データの相互承認

化学標準物質および高度計測手法の開発

研究室でのひとこま



認定標準物質
NMIJ CRM 8004-a
ファインセラミックス用窒化けい素微粉末
(直接窒化合成) II
 Fine Silicon Nitride Powder for Fine Ceramics
 (Direct Nitridation) II



本標準物質は、ファインセラミックス用窒化けい素微粉末中の主成分および微量成分元素の定量において、分析の精度管理や分析方法・分析装置の妥当性確認に用いることができます。

概要:市販のファインセラミックス用窒化けい素原料微粉末から調製された試料であり、主成分及び微量金属成分の8元素の濃度を認証しています。認証値は、一次標準測定法を中心とする測定法を用いて決定したものです。参考値として微量金属成分7種類(Ba, Co, Cr, Cu, Mo, Sr, Y)、微量非金属成分2種類(O, F)の各濃度も認証書に記載されています。

認定値	
	[質量分率 (%)]
全けい素 :	59.226 ± 0.187
全窒素 :	38.485 ± 0.219
	[質量分率 (mg/kg)]
Al :	739.7 ± 18.0
Ca :	72.7 ± 4.6
Fe :	196.9 ± 6.0
Mg :	10.29 ± 0.40
Mn :	2.987 ± 0.136
Ni :	2.485 ± 0.172
Ti :	8.519 ± 0.256
Zr :	2.146 ± 0.102

(認定値の±に続く数値は、合成標準不確かさと包含係数 $k=2$ から決定された拡張不確かさです)

内容量 : 25 g (ガラス瓶入り)

短かった就活 & 婚活

- **研究公務員**を目指したため、就職活動は全くしなかった。その代わりに、研究の合間や通学時間を利用して、受験勉強に邁進(センター試験の勉強がその時、ようやく役立った)！
- つくばの研究所の研究者と、大学の先生が知り合いであったため、面接がスムーズに行えた。
- たまたまつくばの学会で、研究室の3期先輩と再会。**趣味**(クラシック音楽鑑賞や芸術鑑賞)が一致していたため、意気投合？さらに相手の勤務先が東京(関東)であったことから、**即結婚**を決めた。(まさかその後単身赴任別居生活になるとは！)

欲張り人生？ 結婚・出産・学位

- 女性が研究者として働く場合にまず考えたこと
結婚・出産・学位・留学の順番をどうするか？
また優先順位をどうするか？
- 出産と学位の順番 学位取得が先の方が望ましい。(出産後の論文執筆は大変！)
- 留学は学位取得後に行った方が良い。
- 理想の形は 結婚 学位 留学 出産
- 実際は 結婚 学位・出産 (留学は保留)

晴天の霹靂 夫の単身赴任

- やむにやまれぬ事情で、子供を授かった途端に、夫の神戸への移動が決まる。(大学のポストは、場所を選べない(T_T))
- 関西圏の大学へ誘いの誘惑(今思えば、学位取得の声がかかったのも、そのため?)を振り切り、夫との同居生活よりも、つくばでの研究生生活を選んだ(研究環境・子育て環境の充実)。
- 母一人・子一人の生活の中で、子供と父親との週末の密度の濃い時間を作る。
- 今も健在の母親のサポート(子供の突然の病気・外国出張)を頼る。

猫の手も借りたい忙しさの中で

- 仕事は8時 - 6時で仕上げる。残りの時間はすべて、子育てに専心。(上司の理解が重要！)
- 子供が大病をしないように、普段から無理無い生活を子供にさせる(早めのケア)。
- 子育てしやすい環境(保育所・学校・病院・駅からのアクセスが良い住宅)を整える。
- 週末はとにかく、父親に子供の面倒を見てもらう。情操教育上重要！(学校行事への参加など)
- 親のサポートをお願いすべき時はする。

子育てと研究の両立は楽しい？

- はっきり言って大変である。研究は自分のペースを築けるが、子育ては子供の機嫌次第でかき回される。忍耐と辛抱の連続だが、それだけに喜びも大きい。
- 論文を仕上げるペースが明らかに遅くなった。(もっとも研究所における業務内容が出産後変わったこともあるが)それでも継続させる事が重要
- 研究者として最も油が乗るべき40代に、子育て真っ盛り。それでも焦りは禁物。女性研究者の場合は、40代後半から花を咲かせる例が多数。

キャリアパス構築の難しさ

- 研究公務員の一般的な昇格コース

2級	3級主任研究員(30代前半)	助教
3級	4級(30代後半)	准教授
4級	5級(40代前半)	教授

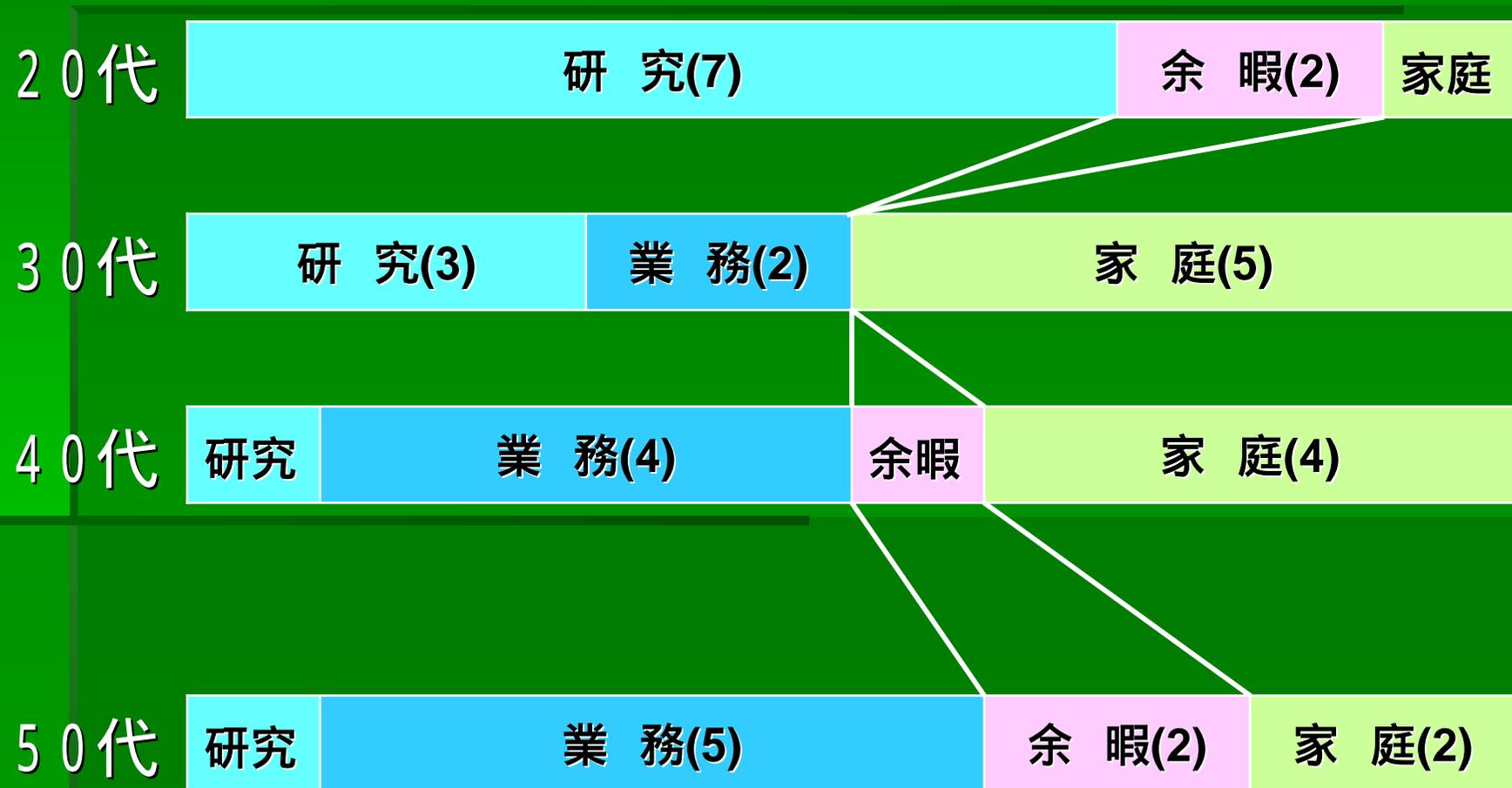
- 5級に求められる能力
レベルの高い研究遂行(予算獲得)能力と指導力

- 子育てと研究の両立 研究遂行のペースが自分中心になりがち。昇格の遅れへの焦り。
- さまざまな精神的ストレス

人生の折り返し点で思うこと

- 社会人(研究者)としても人間(母親)としても丁度折り返し点に来ている。
- 研究リーダーとしての責任と、母親として子供の人間的・社会的教育の責任を果たさなければならない。
- 何にしても**身体が資本**である！
- 必要以上にストレスを溜めない！
- 時には**息抜き**が必要！
- 自分を支えてくれる**家族の存在**が重要！
- 自分のために、それ以上に家族のために
- 家族との**語り**を大切に

生活時間の配分の変遷 (希望的観測を含む)



・長女の誕生の直後に神戸大学への 単身赴任が始まった

・長女の出産

陣痛40時間 + 帝王切開。夫には何も分からない。何もできない。
ひたすら妻のお腹をさすって、うろうろ、おろおろするだけ。
誕生直後の我が子を腕に抱いて、初めて父親になったことを実感する。

・神戸大学への単身赴任

1ヶ月に2回、つくばと神戸とを往復。移動距離600km。片道6-7時間。
研究のアクティビティの大幅な減退。焦燥。

・神戸のアパートで一人住まい

自分の身の回りのことは全て自分でやる。
家の掃除、洋服の洗濯。食事の用意。食料品の買い物。
女性の自立とは、**男性の自立**である？

・首都圏の大学のポストを必死で探す

競争率はいつも30-60倍。(大学の独立行政法人化。教員の定員の削減。)
何十回も教員公募に申請書類を提出。

・つくばの家庭に戻るたびに思うこと

・研究者としての自分をスイッチオフ

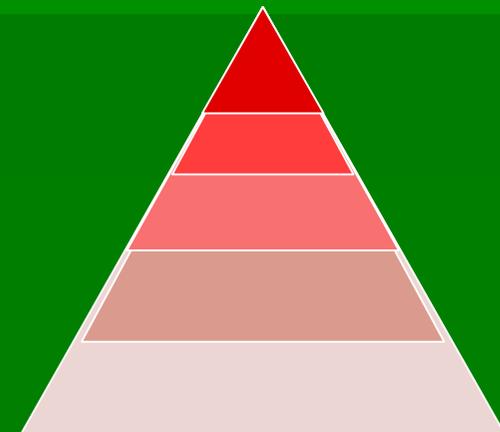
職業人、研究者、大学教員とは別の自分を見いだす。
単身赴任先の家にて、ひとりでも、研究者としての自分のまま。
子供と接している時間が短い分、接している密度を濃くする。
つくばへは、職場から仕事をいっさい持って帰らない。仕事のことをいっさい考えない。

・スナップショット

子供が0歳児のとき、毎週末、帰省するたびに、子供の成長がスナップショットで見える。
自分や妻は、ほとんど変わらないのに、子供はどんどん変化していくことに感動。

・男性社会は“猿山の猿”???

夫婦共働きの男性は少数派。
ランク付け。ヒエラルキー。肩書き、名誉、高給vs薄給。
立身出世のみが人生の目的ではない???
女性の生き方のほうが自由で、幅広い。



家族への配慮

・長女の心のケア

次女が誕生したとき、長女は3歳半。
今まで家の中ではお姫様だったのに、妹の誕生によって、単なるお姉ちゃんに降格。
妻が次女の世話をしているときには、必ず長女の遊び相手をした。

・妻が子供を叱っているときには、夫は子供を優しく慰める

決して挟み撃ちにしない。子供の逃げ場所を作ること。

・夫婦げんかは犬も食わない

日曜の午後に夫婦で言い争い。(何の問題で言い争ったかは忘れた。どうせつまらない内容だったのだろう。)
月曜日の朝、長女が体調不良を訴える。便に鮮血が混入。
慌ててつくば大学病院に連れて行き、精密検査を受けるが、全く異常なし。
長女と3人で昼ご飯を外食。両親を独占できて、長女は満足そう。(良かった、良かった。)
おかげで夫婦揃って、月曜は終日、職場を欠勤。

・負けるが勝ち？

妻が家の中でなにやら怒鳴っているのは、ストレス発散。
妻の怒鳴り声は、妻の健康状態のバロメータ。いちいち反論する必要なし？
結婚以来ずっと、現在に至るまで、毎晩、妻の肩もみ。
(たまには、わたしのほうが肩もみをしてもらいたいものだが…)

謝 辞

- 講演の貴重な機会を与えて下さいました、慶應義塾大学ワークライフバランス研究センターの方々
- 大学在学中から現在に至るまで、さまざまな局面でご指導下さいました、茅幸二先生(元化学科教授)、岩田末廣先生(同教授)、産総研久保田正明氏
- 本日も集まり下さった、慶應義塾大学の皆さん

御静聴、有り難うございました。